

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人社団中山会新札幌パウロ病院		
事業所名	グループホーム春桜		
所在地	北海道札幌市厚別区厚別東3条6丁目1番5号 (電話) 011-897-0733		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年10月29日

【情報提供票より】 (平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 19人, 非常勤 6人, 常勤換算 23人	

(2) 建物概要

建物構造	壁式RC 造り		
	3階建ての 1 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	16,000~19,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	380 円	昼食 380 円
	夕食	380 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,140 円		

(4) 利用者の概要 (8月29日現在)

利用者人数	24 名	男性 6 名	女性 18 名
要介護1	3 名	要介護2	12 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.7 歳	最低 71 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人中山会新札幌パウロ病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、当初、母体法人であるパウロ病院が入院患者を在宅へ戻すことを目指し、自宅へ戻れない方の受け入れ場所として開設した。現在は、地域住民や一般市民の利用が多くなっている。利用者それぞれの「大切な命を元気で楽しい命に」という基本理念を、母体法人の強力な連携を得て実践中であり、身体機能の低下に伴う利用者や家族にとっての安心感を確保している。緑豊かな事業所周りの環境に加え、事業所内の生活スペースも広く、利用者はゆったりと過ごしている。事業所では、地域で暮らす意味を考え、地域住民との日常的な交流を検討中であり、利用者がありのままに暮らすことが期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題である「市町村との連携」については、事業所内の運営内容の充実を優先したことから、継続して、今後市町村とどのような方法で連携し運営に活かすかを検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と各ユニットリーダーが一緒になって、項目ごとに振り返り検討して作り上げている。自己評価・外部評価の意義を職員全員が認識しており、気づきの機会として取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会長・民生委員・家族代表・地域包括支援センター職員・管理者等をメンバーとして、2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、事業所の現状・利用者の生活状況・各種行事の報告を行い、時には認知症の理解のための講話も行っている。会議での意見を、運営に反映するよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に、事業所内外の苦情相談窓口を提示し、利用者・家族に説明している。家族の意見や不安については、家族の訪問時に職員が声かけをしたり、運営推進会議や「春桜メール」で伝えるなど、家族が言い出しやすい雰囲気づくりに心がけるとともに、意見を運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小・中学校の学習発表会に参加したり、生徒が事業所を見学する機会を設けるとともに、地域住民とは、母体法人の祭りや花火大会等で交流を図っている。現在、町内会長・民生委員を通して、地域住民との連携を強化するよう検討中である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設2年後に、職員全体で理念の見直しを図り、「大切な命を元気で楽しい命に」という理念をつくりあげている。	○	基本的理念を基に、地域密着型サービスとして地域との交流を目指した内容も検討するなどし、利用者があるのまに暮らし続けることへの更なる支援を、今後も期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念の共有を図るとともに、職員は、理念を書いたカードを常に携帯し、ミーティング時に復唱したり確認を行いながら、ケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	経営者は、町内会行事に参加している。事業所は、近隣の小学校・中学校の行事に参加し、生徒の事業所見学も受け入れ、交流を図るとともに、ヘルパー養成の実習生も積極的に受け入れている。更に今後は、地域住民との交流も検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に、自己評価・外部評価を通して、外部からの目線の大切さを理解し、慣れから忘れていたことに気づかされたり、わからないところを確認する機会としてとらえ、ケアに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに会議を開催し、事業所の現状や利用者の状況を報告するとともに、認知症についてのミニ講話も採り入れて、グループホームへの理解を得るように努めている。町内会長を通して、地域との協力体制を検討中である。また、地域包括支援センター職員も会議に参加し、意見交換を行う取り組みを進めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議の内容と事業所の空き状況を報告しているが、日常的に担当者行き来するまでには至っていない。	○	地域密着型サービスとしての事業を展開する中での課題解決には、市との協力関係が重要であり、運営方針や利用者の状況説明、相談などで、日常的に連携を図り、サービスの質の向上に活かすことが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊誌として事業所全体の「春桜たより」とユニットごとの「春桜メール」を発行し、事業所の行事案内・運営状況、利用者の暮らしぶりについて報告し、通信欄では、利用者一人ひとりの健康状態や生活状況を知らせている。金銭管理報告も、領収書を添えて提示している。現在季刊発行の「春桜たより」を、毎月発行できないかを検討中である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情処理に関する内部窓口と対応手順を示すとともに、外部機関の苦情窓口も提示し説明をしている。また、運営推進会議で家族からの意見を受けて、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があるときは、異動直後の新しい職員と利用者の直接的な関わりを控え、利用者や職員がお互いに慣れたころから徐々に関わりを深めるなど、利用者の混乱に配慮した支援に心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の研修参加に理解があり、職員は法人内外の研修に積極的に参加している。管理者は、率先してさまざまな研修情報を職員に提供し、また、職員からの希望も採り入れながら、職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者会議やケアマネジャー会議等で交流を図り、ネットワーク作りをしている。区の呼びかけで、区内の同業者同士の職員が相互見学を行い交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人・家族との話し合いや、事業所見学をしてもらい、時にはショートステイの体験を通して、事業所に馴染めるよう本人・家族と相談しながら、サービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの得意とすることを大切にし、利用者から調理のアドバイスを得たり、メニューを書いてもらうなど、共に支えあう関係を築いている。また、利用者自身の多面的な知識や能力に気づかされ、学ぶ機会を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を、日ごろの会話や行動から把握したり、家族から情報を得て、利用者本位の暮らしを目指した支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回ケアプラン会議を開催するとともに、月1回の職員会議もケアプランと連動して行い、職員間で課題を検討し意思の統一を図っている。また、利用者・家族の要望も採り入れて、利用者に沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、3ヶ月ごとに見直しを行っている。利用者の状態変化時は、その都度、変化の原因把握に努め、職員間で検討し、現状に即した介護計画の見直しを臨機応変に行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイや医療連携体制を活かして、母体法人である医療機関の協力の下で、利用者の生活の継続に努めている。外出・外泊、理・美容室への送迎支援や家族の状況に応じた通院の支援も、日常的に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の協力病院と廊下でつながっており、24時間対応が可能なため、利用者の状況に応じて適切な医療を受けられる体制となっている。また、本人や家族の希望する他病院への受診支援にも努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、本人・家族から終末期についての意向を確認している。隣接する協力病院との連携を密に図り、重度化や終末期医療に向け、かかりつけ医や家族・関係者と話し合いを持つなど、全員で方針を検討するよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者は人生の先輩であるという意識を常に持ち、プライドを損ねることのない言葉かけを行っている。職員には採用時に、個人情報の取り扱いについて指導するとともに、利用者・家族にも説明をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、利用者のその日の様子や希望に沿って、散歩・外出・手作業・体操など、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。居室で自由に過ごす利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の希望で、メニューを変更したり、食材の種類を多くし、味のバランスや色取りも工夫して、食事が楽しみとなるよう支援している。利用者は、力に応じて配膳や後片付けに参加している。また、希望に合わせて居室で食事を摂る利用者もおり、下膳も本人がしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週2回以上の入浴を勧めている。利用者の体調やタイミングを計り、希望に合わせた入浴支援を行っている。時には家族の協力を得て、入浴する利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	母体法人が開催する作品展に出品する作品を、利用者全体で取り組むなど、目標を持って過ごすことを勧めている。趣味と機能訓練をかねて、折り紙で貼り絵をした昔風の暦作りや、毛筆で献立表を書くことを日課とする利用者もいる。散歩や買い物、体操など、気晴らしとなる支援も試みている。母体法人による花火大会も楽しみごととなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、買い物や散歩、母体法人の病院の喫茶店に行くなど、日常的に戸外へ出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の安全確保のため、鍵をかけているが、日中は鍵をかけず、自由に出入りができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。事業所内には、消防署と直接つながる緊急通報システムとスプリンクラーを設置している。しかし、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	○	災害時には、避難後の利用者の安全確保と見守りの人手不足が課題となることをふまえ、地域住民との話し合いや協同での訓練を含め、地域住民との協力体制を検討することを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量を記録し、不足分は本人の状況をみて補うよう心がけている。献立付きの食材が契約業者から届き、カロリーが把握できるようになっている。食材の不足分は、小売店で調達し、栄養バランスを考えて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ユニットとも、同じ間取りとなっている。車椅子での交差が可能な広い廊下と中庭に面して、居間・食堂があり、明るい空間となっている。廊下の所々に、畳敷きの腰掛やソファーセットを置き、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう支援している。月ごとの手作り暦も随所に貼り、季節感が感じられる工夫もほどこしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子でも十分な広さの居室となっている。家具・調度品は、利用開始時に本人や家族と相談して、馴染みの物を置き、居心地良く過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。